

6. 健診データオンライン表示システム

被爆者は年2回の一般定期健診に加え、必要に応じて精密検査を受けることができる。これらの定期健診の約90%は長崎原子爆弾被爆者対策協議会の被爆者検査センターで実施されている。これら被爆者の検査結果は長崎大学医学部原爆資料センターの被爆者データベース・システムに入力され、記録されている。被爆者検査センターでの日常の健診業務に、これらの検査結果の記録を活用するため、検査結果をオンライン照会するシステムを開発した。昭和61年8月、被爆者検査センターに、多機能ワークステーションが設置され、NTTのデータ通信専用回線で医学部原爆資料センターのコンピュータIBM 4361と結ばれた。ワークステーションには2台の端末装置があり、診察室において自由に検査結果の内容を表示あるいは印刷することが可能となった。このワークステーションには最大4台の端末装置が増設できる。

以下に示す内容の表示および印刷が可能である。

1. 手帳番号，氏名，生年月日，被爆状況
2. 検査結果の一覧表
3. 検査項目グラフ
血液，血圧，尿，肝機能，蛋白分画について検査結果の経年変化を折れ線グラフで表示する。
4. 心電図の診断結果
5. 診断結果（ICDコード）

次頁にシステム構成を示す。

システム構成

